

日本からのプレゼンテーションの概要

【主要利用国としての我が国の見方ー日本の貢献と協カメカニズムへの期待】

(セッション5：利用国の考え方)

柴田国土交通審議官から、マ・シ海峡の航行安全、セキュリティ、環境保全の推進に係る日本の貢献、新たに構築される協カメカニズムへの期待などを説明するとともに、沿岸国提案プロジェクトのうち、プロジェクト3及びプロジェクト5について支援を検討する旨表明した。

※ 我が国の支援検討内容

- ① プロジェクト3（小型船舶用AISクラスBの実証支援）
小型船舶の事故防止に有効なシステムとして、AISクラスBの有効性を検証するため、実証試験の企画立案に関わる調査を実施
- ② プロジェクト5（既存の航行援助施設の維持・更新）
マラッカ・シンガポール海峡の重要航路標識のうち、早急に更新が必要な航行援助施設について現場調査を行うとともに、更新に関わる設計や課題について検討

【マラッカ・シンガポール海峡の船舶通航量の将来予測】

(セッション4：航行安全、環境保全対策)

岡西海事局外航課長から、国土交通省と日本財団が共同で実施した調査結果について、以下のとおりプレゼンテーションを行った。

- ① 1994年と2004年のマ・シ海峡における通航量のデータ分析の結果
 - ・急速に海峡通航量が増加（1994年→2004年：重量トンベースで1.6倍）
 - ・東アジア諸国、欧州主要海運国、産油国等の幅広い国々が受益（2004年：日本18.6%、ギリシャ13.4%、中国10.5%、ドイツ9.3%など）
- ② 2010年と2020年のマ・シ海峡における通航量予測の結果
 - ・今後も海峡利用は増加（2004年→2020年：重量トンベースで1.6倍）